

問題（200点）

<出題意図>

課題文は、村上靖彦著『客観性の落とし穴』（筑摩書房，2023年）の第3章「数字が支配する世界」からの抜粋である。数値化された社会，統計が力をもつ社会では，数字で示された現象は「事実の傾向性」を示す指標ではなく，「事実を支配する法則」のように見なされるようになる。こうした社会では，リスクも数値化され，予測可能なものになり，リスクを避けることが合理的かつ当然であるという考え方に導かれてしまう。また個々人の非合理的な行動については，個々人のみが責任を取るべきものであるとされるようになり，そうすると人は往々にしてリスクを恐れ，自ら進んで己の行動を規制や規範にしばりつけるようになることが論じられている。

受験者には課題文を理解し，現代の数値化社会が抱える問題について論理的に思考し，自身の経験や知識から想像して，適切な表現で論述することを求めている。